

この写真は、昭和30～40年代に使われていた50円硬貨です。当時の50円玉は、現在のものより一回り大きく、手に取るとずっしりした存在感があります。左側は穴のないタイプで、初めて発行された50円硬貨です。その後、右側のような穴あき硬貨が登場し、見分けやすさや使いやすさが工夫されました。

私は子どもの頃、この穴のない50円玉が好きで、買い物のお釣りでもらうと少し得をした気分になったものです。現在の50円硬貨は白銅製（銅75%、ニッケル25%）で磁石にはつきませんが、昔の50円硬貨はニッケル100%だったため磁石にくっつきました。そのため子どもの磁石遊びにも活躍し、身近な科学教材のようでもありました。このニッケル50円硬貨は今でも「現行通貨」として使用可能です。しかし、昭和の記憶を宿す貴重な一枚として、大切に保管しておきたい硬貨です。

